



第 70 号
平成 21 年
9 月 発行

敬老の日に思う：「老人力」とは

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

「老人」というと、経済的な面、福祉や医学的な面しか捉えられず、庇護、サポートを要する弱者的な存在と見られがちです。「後期高齢者」という用語で済ませられるものではないでしょう。もちろん、何かの時は援助される事もあるでしょうし、福祉制度も必要でしょう。けれども、仮に介護される立場になっても「要介護の老人」という枠で括らないでほしいものです。

思春期や壮年期が、人によって様々であるのと同様に、老人も多様であります。様々な経験をしてきただけに、むしろ若い人以上に多様性、いや柔軟性があるのではないのでしょうか。「年をとって、初めてわかること」は多くの高齢者から「私たちはこんなふう生きてきたし、生きています。」という現実の姿をみる事つい実感させことです。

現代では、高齢者の独り暮らしという寂しいことのように受け取られがちですが、必ずしもそうではないと思います。なかには、一人暮らしを謳歌している老人だって当然多くいるのですから。立川昭二著「年をとって、初めてわかること」に老いを描いた多様多彩な文学作品を紹介しています。「老いの自覚」「老いと欲望」「女の老い・男の老い」「老いの価値」「老



山際イクヨ様 104 歳誕生日会
望洋荘最高齢の山際様の 5 月 1 日の誕生日に、お祝いに駆けつけたご家族様に囲まれて行われました。

いの美学」「老いと看取り」など全十篇です。著作の中の登場人物たちは、生きがいや、願いを持ち続け、苦しい中に自分なりの何かを見つけて努力をして来ているのでしよう。そこに述べられている自己発見こそ「老人力」と思います。

認知症になった人に、若い頃の歌を歌ってみると、突然涙を流す方がいます。それは長い人生を経てきた老人だからこそ見られる現象なのでしょう。老人は、辛い思い出を沢山持っています。顔は皺くちやだし、身体は不自由になっています。でも、だからこそ、様々なことに懐かしさを感じ、小さなことに美しさを見出す事が出来るのです。

九月敬老の日にあたって、当「望洋荘」には、嬉しいことに百四歳になられる御婦人「山際さん」が健在です。今も矍鑠（かくしゃく）として日常の会話をこなし、時には身体の不自由な年下の方の車椅子を押しとお風呂場に向かうお手伝いもしています。健康的な食事。適度な運動。生きがいを持ち助け合う。このような百寿者の生活は、生きる上で必要なことを私共に示唆しているのではないのでしょうか。彼女の存在は望洋荘住人の希望の星となっています。

「望洋荘祭り」

毎年恒例となりました「望洋荘祭り」を九月二十日（日）午後一時三十分より、正面玄関前広場で行いました。今年も天候に恵まれ、青空のもと、ご家族様や地域の皆様にご来荘いただき盛大に執り行う事が出来ました。又、家族会の役員様を含む、多くのボランティアの方々のご協力に、職員一同深く感謝しております。誠に有難うございました。



「クラブ」の皆様による。フリーデイングをご披露頂きました。みんなも一緒にレッツダンス



「さつき会」の皆様による。和太鼓が望洋荘祭りの始まりの合図！



「カアモキナナ」の皆様による。ワダンスをご披露頂きました。南国の雰囲気を感じました。



「下神谷青年団」の皆様による「じゃんがら念仏踊り」をご披露頂きました。先祖を偲ぶひと時でした。



「新常磐寝具」さんにボランティアでポップコーンを手伝って頂きました。美味しいポップコーン有難うございました。



職員も出店を担当しました。よりによって施設で一番2番のいっつい男子職員・・・でした。



「家族会」の皆様による「やきとり」「豚汁」の出店です。今年から家族会の皆様は緑のハッピーです。



「積水ハウス」の皆様による「巣箱」作り、何と！住宅建築時の廃材を利用してるという事でした。



「バザーコーナー」例年大好評のバザーコーナーは開始時間前から大行列が出来るほどでした。



「釣り」今年初めての企画でしたが、子供には大盛況でした。



入居者様も、ご家族様と楽しめました。美味しそうな綿菓子ですね！



娘さんとともに！はいチーズ！いつもは見られない笑顔で嬉しそうですね！



次は何処に行こうかしら！こんな感じで、出店でショッピングを楽しんでいるようでした。



最後の締めくくりは、みんなで盆踊りです。さすが！むかし取った杵柄とっても板についています



望洋荘祭りはどうですか！との問いかけに、楽しいよ！ありがたや！ありがたや！と合掌する姿



ショートスティの皆様も！音楽好きな方々でいつも歌やハーモニカをご披露いただいています。

「介護福祉施設における安全対策」

・・・其の一

望洋荘では、現在、施設での事故防止の為、事務長代理の丹野が、定期的に「介護事故防止だより」を作成して、職員教育を行っています。

職員向けに、わかり易く作られておりますので、ご家族の皆様にも、介護現場をご理解頂きます様ご案内させていただきます。

介護現場に置ける「事故」の考え方

① はじめに

医療事故が大きくマスコミで取り上げられ、また同様の扱いで、介護現場における骨折などのトラブルも介護事故として報道されるようになりました。

あつてはならないことであり、事故に対しても再発防止にむけての検討を進める事が求められています。

しかし、その内容を見ると、大部分の医療事故は、直接医療行為の中で起きている事がほとんどです。極端な言い方をすれば、医療を受けなければ遭遇しないという事です。

一方、介護現場で「事故」として扱われやすい転倒や転落による外傷、皮下出血、骨折など

は、自宅で暮らしていても起こり得ます。

介護保険制度の見直しにおいて、介護予防対策の一つとして転倒予防が取り上げられていますが、これなどは介護現場というより、転倒が暮らしの中で起こることを示すよい例といえるでしょう。

暮らしの中でのトラブルは、当然生じます。施設だからといって防げるものではありません。人が生きるということ、暮らすということは、場所がどこであれ実は多くの危険（リスク）に満ちています。

そのため、介護現場における「事故」とは何を指すのか、あらためて見直す必要があります。

② 事故とは何か？

施設における事故というと、まず転倒に伴う骨折や外傷です。私達は転倒をどう防ぐかについて、事故防止組織委員会を組織し、取り組んでいます。

ところが、転落や転倒の約六五％は、職員のみえない場所(居室・廊下・トイレなど)で発生しています。

また、見えていても転倒や転落を防ぐ為に対応出来るのは、職員が両手を広げて届く範囲(スペース)ということになります。

だからこそ、介護事故も医療事故と同様に、

職員の介護行為を伴うなかで、また手の届く範囲にいた入居者の転倒・転落のうち、それを防ぐ事が出来たと判断できるものを「予防出来る事故」・「防ぎえた事故」として扱うよう限定すべきだと考えています。

ただしこれは、職員の見えないところで起きる転倒・転落による骨折、外傷が生じさせない対策を立てないという事ではありません。

骨折や外傷すべてを事故扱いにして、安易に再発防止を唱えても実効性がなく、唯一の対策が身体拘束になりかねないことをまず確認すべきです。

人は立ち上がれば、そして歩けば転倒する可能性(リスク)があります。

また、ベッドからの転落や車いすを使って転倒することもあります。どうすれば介護事故を防げるか、本人・家族を含めて全員で考えなければ成りません。

③ まとめとして

暮らしの中で生じるさまざまなリスクを前提として、職員が直接行う介護行為に伴うものだけでなく、たとえ職員の見えないところで起こる転倒・転落でも、入居者のダメージを最小限にする用具までも含めて、介護施設のあり方と気配りが問われることとなります。

「望洋荘祭り」新聞掲載の紹介

「望洋荘祭り」について、いわき民報新聞九月二十二日の「いわきひと模様」に実行委員長を務めた介護支援専門員の菅野が掲載されましたのでご紹介致します。



「望洋荘祭り」で実行委員長を務めた菅野 剛さん

利用者の笑顔が元気の源

実行委員長として尽力した菅野さん

「台風が来るかもしれないといふこと」(天気を心配したが、晴天となり本当によかった)と笑顔を見せるのは、豊間町の介護老人福祉施設「望洋荘」ケアマネジャーで、20日に行われた望洋荘祭りの実行委員長を務めた菅野剛さん(37)。
昨年からは会場を施設外に移動し、「地域の祭り」としてまず地域住民に親しまれつつある。菅野さんは「施設利用者や地域住民の交流の場として、今後も盛大に開催できれば」と笑顔をみせる。

「インフルエンザ」予防接種の案内

今年、全国的に新型インフルエンザの感染が新聞やテレビ等で大きく取り上げられております。これらの影響により、人々の予防に対する関心が高まり、マスクや消毒液などが品薄状態となっているのが現状でございます。

当施設においても、この状況の中、入居者様の安全確保を図るためマスクや消毒液などの確保に尽力しております。また、通常のインフルエンザ予防接種についてもワクチンの確保を図り、入居者様および職員全員の接種を行ないたいと思っております。

家族の皆様には、施設方針をご理解いただき、入居者様がワクチン入荷後速やかにインフルエンザ予防接種を行なえるように、ご協力下さいます様お願い申し上げます。

尚、インフルエンザ予防接種については、当日に看護師が入居者様の状態を確認し、医師の判断のもと実施してまいります。

インフルエンザ予防接種に関する諸費用
★いわき市在住の六十五歳以上の方は
(十月十五日から十一月十五日まで)
一、二〇〇円となります。

※インフルエンザ予防接種に関する諸費用については、十月〜十二月の間に予防接種を実施した月の施設利用料金に合わせてご請求させていただきます。

十月の行事予定

十月三日(土) 午後四時三十分〜 勿来ユニット
「お月見会」
十月七日(水) 午前九時三十分〜 勿来ユニット
「買い物ツアー」ヨークベニマル大原店

【十月のお誕生会予定】

- 十月二日(金) 四倉 佐藤キクエ様 (七七歳) 誕生会
- 十月二日(金) 四倉 佐久間清吉様 (八十歳) 誕生会
- 十月十日(土) 永崎 阿部ナツ子様 (八七歳) 誕生会
- 十月十五日(日) 四倉 田村ハナヨ様 (九五歳) 誕生会
- 十月十八日(水) 永崎 西山 正子様 (九六歳) 誕生会
- 十月二十九日(木) 薄磯 安斎富美子様 (八五歳) 誕生会

編集後記

『望洋荘』便り
平成二十一年九月三十日発行
発行所 いわき市
平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人 りんさく福祉会

電話 (0246) 55-7373
介護老人福祉施設 望洋荘
FAX (0246) 55-7255